



## 国際交流



(上)生徒が贈ったプレゼントを手にするアメリカドイツの高校生  
(右)日本の折り紙を体験してもらう



## 欧米から留学生6人が来校し、「おにぎりパーティー」で交流



2学期の期末テストが終わった12月12日、大須ロタリーが招いたスイス、アメリカ、ドイツ、フランス、カナダの5か国の高校生が、高2の1、9、10組を訪れました。これは本校に協力していただいている大須ロタリーとの提携で実現した行事です。

各クラスは、この日のために生徒が用意してきた米を家庭科教室で炊き、留学生と一緒におにぎりをにぎって、「おにぎりパーティー」を開き、楽しい交流のひとつを過ごしました。生徒たちはすぐに仲良くなり、大成功の交流会となりました。



(左)できあがったおにぎりを「いただきます」  
(下)生徒たちと一緒に作ったエッフェル塔を前に記念撮影(スイスとフランスの高校生)



(左)カナダの高校生に、ご飯のにぎり方を教える  
(下)交流の前には、それぞれの国についての説明も。これはフランスの高校生



## 姉妹校のセント・キャサンリンス校から交換留学生がホームステイに

## トニー・ラズロ氏を講師に迎え、国際交流講演会開催



本校と姉妹校提携をしているオーストラリアのメルボルンにあるセント・キャサンリンス校から、2名の生徒が冬休み向けには夏休みを利用してやってきました。高2のアンナ・ブライアさんとエイム・サルモンさんで、12月13日に名古屋空港に到着後、ホストファミリーを引き受けていただいた本校高2の岡本真実さんと南里沙さんのご家庭へ向かいました。15日に学校へ初登校し、職員朝礼で

12月12日(金)、長久手キャンパスで国際交流講演会が開催されました。講師に、NGO一緒企画代表であり、フリージャーナリストとして幅広く活躍のトニー・ラズロ氏を迎え、「多様性のパワー」定住外国人との多文化共生」というタイトルでお話をしていただきました。



足、または古い慣習にしがられた思想から、様々な人種差別問題が起きている現状を知ることが、多文化共生への第一歩となります。講演会では、外国人に対する「入店拒否」や、消防団への入団不許可」といった具体的な事例を通じて、身近に潜む人種差別意識について考え、そこから、定住外国人の方々と建設的な関係を築くためのヒントを得ることができたのではないかと思います。

今回の講演会には、約50名の学生、教職員が参加し、熱心に耳を傾けていました。学生の中には、国際交流センター科目である米国内POインタナショナルシッププログラムの参加経験者の姿が目立ち、ボランティア活動への問題意識の高さを感じました。

国際交流センター主催で年1回行なわれる国際交流講演会には、国内外で活躍する国際人を講師としてお招きしており、毎回好評を博しています。

立派にあいさつしました。2人は1月17日まで名古屋に滞在。クリスマスやお正月など日本の冬を過ごし、京都への日帰り旅行なども行い、学校主催のフェアウェルパーティーを最後に帰国します。楽しい思い出をたくさん作ってくれることを願っています。

年末年始の忙しい時期にホームステイを引き受けていただいた皆様、ありがとうございました。